

(通巻56号) Vol.14.No.4

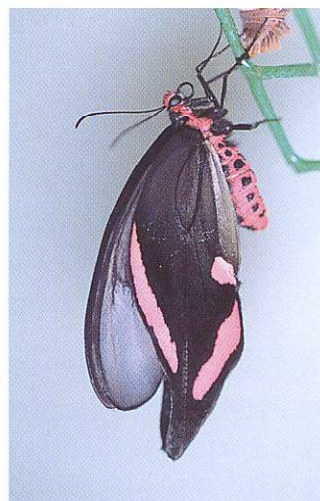
か はね チョウのくらし探検(19) 変わった翅をもつシロオビアゲハ

累代飼育をしていくと、その過程で少し変わった個体が蛹から羽化することがあります。以前、GONTA49・52・53号では「飛べないチョウ?『ジャコウアゲハ』」と題し、ジャコウアゲハの翅に翅脈が無い個体が出現したことを3回紹介しました。その後、この翅脈が無い個体が今度はシロオビアゲハに出現したので紹介します。(写真1)

出現したのは、平成14年9月23日(オス)、10月24日(メス)、11月13日(オス)、羽化日不明(オス)の4匹のみです。このシロオビアゲハの異常個体をみると、前翅の翅脈は、胸の基部から翅の中央部まであり、それ以降は消失してしまっています。後翅の翅脈も、

コウアゲハの異常型は卵と幼虫では判別ができません。しかし、異常型の蛹では将来成虫の翅の翅脈となる部分に筋状の模様が消失していることで、簡単に判別することができます。シロオビアゲハの場合は、ジャコウアゲハと同様に卵、幼虫では判別できません。蛹でも羽化間近にならないと翅脈となる筋状の模様が現れないため、ジャコウアゲハよりも判別は難しいです。

2002年でのシロオビアゲハの累代飼育は順調で、大量に蛹化したので、11月より蛹を12.5℃の低温で保存していました。そして、12月頃より少しずつ低温から取り出し、25℃にて羽化させていました。この過程を続けていくうちに、シロオビアゲハの異常型が発生しました。4匹の異常型の

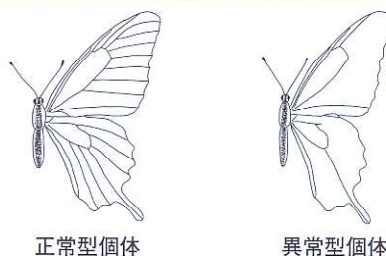


ジャコウアゲハの異常型

うち、9月23日に羽化した個体をみると、5月30日に蛹になり低温にて104日間保存しました。9月11日に25℃へ移し、12日かかり23日に羽化しました。

このような結果がでましたが、異常型が出現した原因が低温で保存したことによるものかはわかりません。引き続き調べていきたいです。(島田)

図1: シロオビアゲハの翅脈正常型個体と異常型個体の比較



正常型個体

異常型個体

「沖縄昆虫野外観察図鑑」を改変



写真1: シロオビアゲハの異常型

シロオビアゲハの正常型

前翅のように基部から中央部まであります。やはり、その先は消失しています。ただし、尾状突起に向かったのびている翅脈と前・後翅の前縁は残っています。正常型の翅脈の発現を100%とすると約30%、翅脈が消失しているようです。翅には鱗粉がありますので、写真では翅脈がどれくらい消失しているのかわかりません。みやすくするため、イラストで表してみました。(図1) また、特徴的なところは、後翅の斑紋が帯状になっていることです。本来は、正常型の後翅の白斑があり、白い帯のように見えるのでシロオビアゲハと呼ばれています。異常型は白斑が繋がりますしく白い帯のようになっています。翅脈異常が出現したジャコウアゲハの場合は、約80%の翅脈が消失し、後翅の赤斑が帯状になっていました。

成虫では翅に異常が現れ、簡単にわかります。幼虫、蛹による異常型の見分け方はどうでしょうか? ジャ

じ しん とき むし 地震、その時虫たちは

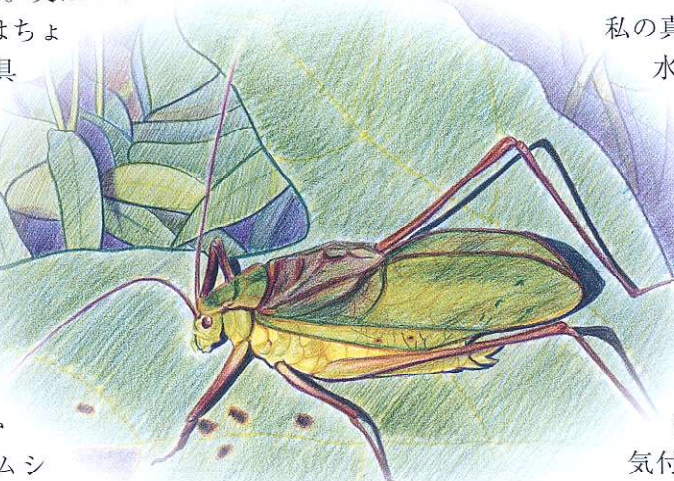
今年は大変地震の多い年ですが、9月5日紀伊半島でも最大震度5弱を記録した地震が19時7分と23時57分の2回あり、橿原市でも1回目は震度3を、2回目は震度4を記録しました。実はこの

1回目の地震のとき、私はちょうど昆虫館近く、天の香具山のふもとにある万葉の森に、担当していた秋の鳴く虫観察会の下見をするため1人でいました。ここは鳴く虫の絶好の観察場所でその日もクツワムシがたくさん鳴いていました。そして遊歩道の脇の草陰から聞こえる1匹のクツワムシの声を頼りに、何とか写真を撮ってやろうと思い、かがんで懐中電灯で探していたときです。ふとそのクツワムシが鳴きやみました。それだけではありません。森中うるさいぐらい鳴い

ていたクツワムシがすべてサーッと鳴きやみ、森がまったく静かになったのです。あれ？と思って顔を上げたその時、雨上がりで木々についていた水滴が

いっせいにザザーッと降ってきました。

私の真上には枝がなかったので水はかかりませんでしたが、森中の水滴がいっせいに落ちたためにもものすごい音です。何が起こったのか分かりません。風は感じないので、森の上空で突風でも吹いたのかな？と思って上を見上げた瞬間、揺れを感じ、ようやく地震だと気付きました。地震のときに動物が異常行動を示す、というのはときどき聞く話ですが、私が揺れを感じる前に鳴きやんだ虫たちの敏感さに驚かされるとともに、かなりドキッとした一瞬の時でした。(辻本)



クツワムシ
イラスト：山上良和

あたらし いく ほう ちょうせん 新しい飼育法への挑戦 —リュウキュウガシワによるカバマダラの飼育—

昆虫館ではさまざまな蝶を飛ばしていますが、その中にカバマダラという蝶がいます(写真1)。幼虫の食草にはトウワタ、フウセントウワタ、ロクオンソウ、ガガイモ(いずれもガガイモ科)などが知られています。昆虫館では卵を回収し、最初からカップでガガイモを与えて飼育する場合がありますが、普段はケージの中に鉢植えにしたトウワタと交尾ずみの母蝶を入れて産卵させたのち、鉢植えごと卵をサブ温室に移して飼育、終令幼虫になったら飼育カップに回収してガガイモを与える、という方法を用います。なぜ最後にガガイモに切り替えるかという、不思議なことにカップ飼育の場合、トウワタを与えるとあまりうまくいきません。たとえサブ温室で鉢植えのトウワタを食べて育った元気な終令幼虫であっても、カップに回収してトウワタを与えると調子を崩してしまうことが多いのです。鉢植えのままケージに入れて室内に移してもあまり調子よくいきません。ガガイモだとカップ飼育でもいくぶんうまくいくのですが、これにも一つ問題があります。ガガイモは昆虫館周辺に雑草として生えているものの、

大量ではなく、さらに冬になると葉が全部落ちてしまうのです。そこでカバマダラと近縁のスジグロカバマダラの食草としてハウス栽培しているリュウキュウガシワ(ガガイモ科)が使えないかと思い、与えてみることにしました。2個の卵を個別にカップ飼育してみたところ、孵化した幼虫はリュウキュウガシワを食べて順調に成長し(写真2)、2匹とも蛹になり、1匹は蛹の段階で死んだもののもう1匹は無事成虫になりました。卵から蛹になるまでの期間は25℃、15L・9Dで15日と16日、その後羽化まで9日と、ガガイモのときとほとんど同じです(GONTA通巻36号参照)。成虫の大きさも変わりません。カバマダラはきれいな蝶なのでこれを応用して何とか増えるようがんばってみたいと思います。(辻本)



写真1：カバマダラ

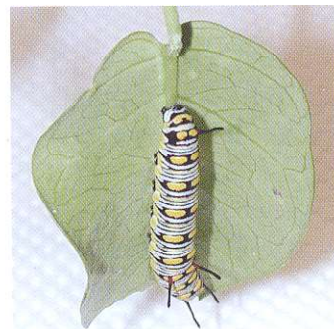


写真2：リュウキュウガシワを食べる幼虫



カブトムシをゲット!

なつ おも て 夏の思い出 ~ 檜原市昆虫館サマースクール2004



落とし穴をチェック!

サマースクールでは

1日目 7月24日(土) 午後2時~10時

開講式と自己紹介
バナナでわなの餌作り
野外で昆虫採集
落とし穴と樹液のわなを仕掛ける
夜の昆虫採集
(ライトトラップ・わなの見回り)

2日目 7月25日(日) 午前10時~午後4時

わなを見回り、昆虫採集
野外で昆虫採集(セミの抜け殻調べ)
標本作成、種類調べ

3日目 7月26日(月) 午前10時~午後4時

昆虫館裏方体験と標本作成
わなを回収し、昆虫採集
標本作成と種類調べ
前半のまとめと発表

こんなことをしました!

4日目 8月21日(土) 午後2時~10時

2種類のわなを準備して仕掛ける
標本を完成させる
夜の昆虫館探検と昆虫採集

5日目 8月22日(日) 午前10時~午後4時

わなを回収し、昆虫採集
昆虫の種類調べなど
「むしムシぜみな〜」の手伝いと参加

6日目 8月23日(月) 午前10時~午後4時

裏方体験と昆虫の体の仕組み調べ(解剖)
データをまとめる
まとめと発表
閉講式(修了証授与)

昆虫館では今年の夏、初めて「サマースクール」を開催しました。

参加したのは、小学3年生から中学2年生までの32名。7月下旬3日、8月下旬3日の合計6日間、昆虫館に通って、様々な昆虫体験を行いました。わなの仕掛けや灯りをつけて夜の昆虫採集、標本作成など盛りだくさんの内容でしたが、みんなで種類を調べ、最後にまとめを行ったので報告します。



灯りで昆虫採集

セミの抜け殻調べ(7月25日実施)では、下表のような結果が出ました。これを見ると、今年7月下旬にはアブラゼミが圧倒的に多く、オス・メス同位の数羽化していることがわかります。

そして、7月と8月の違いを参加者にまとめてもらったところ…

「全体的に、7月の方が昆虫の種類も数もたくさん見られた。また、7月と8月では昆虫の種類が大きく違った。7月にはアブラゼミとクマゼミが、8月にはツクツクボウシが多かった。7月にはカブトムシやクワガタムシの仲間が採れ、8月のみに採れたのがエンマコオロギ等のコオロギ類。ムカデやゾウムシの仲間は8月に多くなった。」…という結果になりました。

今回初めての試みで反省点も多かったですが、今後も子供たちと一緒に野外観察や昆虫調査を実施していきたいと思います。(日比)



標本作成

サマースクールでの調査結果

◎セミの抜け殻調べ(7月25日に実施)

セミの種類	オスの数	メスの数	雌雄不明	合計
アブラゼミ	11	10	32	43
クマゼミ	0	0	4	4
ミンミンゼミ?	1	1	2	4
種類不明	3	3	0	6
木の種類	サクラが多い。 クスノキ・ササ・アオギリ・シラカシ・クワなど			

◎確認した昆虫たち

前半[7月24日(土)~26日(月)]

日中 草 原… ナナホシテントウ・キリギリス・ヤブキリその他、コガネムシ・ハチ・バッタ・カマキリの仲間
捕 虫 網… アゲハチョウ・ニイゼミ(3/桜・松)・アブラゼミ・クルマバッタモドキ・ショウリョウバッタ(2)・トノサマバッタ(3/幼・成)・キリギリス・コカマキリ(2)・オオカマキリ(幼)・シオカラトンボ(♂・♀)その他、ガ・ハチ・セミの仲間
落とし穴… ムラサキシジミ・コカブトムシ(2)・カブトムシ(♀)・マエカドエンマコガネ(2)・コクワガタ・マイマイカブリ・キマワリ・アオゴミムシ・オオゴミムシ・ヒラタシデムシ(3)その他、ゴミムシ・ゴミムシダマシ・シデムシ・オサムシの仲間多数
裏 山… コカブトムシ・シロテンハナムグリ・コクワガタ(♀)・ヨツボシケシキスイ・ヒメコガネ・クマバチ・クルマバッタ・ショウリョウバッタの他、スズメバチ・セミ(抜殻)の仲間
腐 葉 土… コカブトムシ(♂・♀)・カブトムシ(2♀)
万葉の森… ヨツボシケシキスイ(5)・アブラゼミ・コロギス(幼)・ショウリョウバッタ(3)・コカマキリ・オオカマキリ(3)・オニヤンマ
夜間 灯 り で… ドクロメンガタスズメ・コクワガタ・シロチビカミキリ・ノコギリカミキリ・キマダラヤカミキリ・ヒメコガネ(9)・アオドウガネ(7)・キマダラコガネ(2)・スジコガネ(2)・ドウガネフイブイ(2)・カノフン(2)・エリキドウガネ・シロテンハナムグリ・フタモンウバタマコメツキ・シロコバウシ・ヒラタシデムシ・ナガシゴミムシダマシ(2)・ハイロゲンゴロウ・クサガメムシ・フタホシカメムシ・オオホシカメムシ・クルマバッタの他、キタバチの仲間等
樹 液 で… カブトムシ(♀)
林 で… ナナホシテントウ・アカアシアオカミキリ・コメツキムシの仲間

後半[8月21日(土)~22日(日)]

日中 落とし穴… コプマルエンマコガネ(18)・クロオオアリ・モンシロナガカメムシ・オカダンゴムシ(2)の他、エンマコガネ・ゴミムシ・アリ・コモリグモ・ムカデの仲間
裏 山… トビイロスズメ・コカブトムシ・セマダラコガネ・オジロアシナガゾウムシ・ヨツボシケシキスイ・コガネグモ・オンババッタ(3)・ヒグラシ
夜間 灯 り で… ドクロメンガタスズメ(3)・オビヒトリ・クロカミキリ(2)・サビカミキリ・コクワガタ(♀)・アオドウガネ(3)・ドウガネフイブイ・ヒメコガネ・ヒメガムシ・ナナホシテントウ・クリンギゾウムシ・オジロアシナガゾウムシ・ツクツクボウシ(2)・ヒメツチカメムシ・オオホシカメムシ・ヒメホシカメムシ・オカメコオロギ(2)・エンマコオロギ(2)・ミツカドコオロギ・ショウリョウバッタ・オナガササキリ・コカマキリ・モンズズメバチ・セイヨウミバチの他、ガ・ゾウムシ・カメムシ・ヒシバッタ・カマキリの仲間
樹 液 … ルリゴミムシダマシ(2)・アカアシアオカミキリ・ゴマフカミキリ・コガタスズメバチ・クロヤマアリ・ハラヒロカマキリ・アリの仲間(2)



全員集合!

トビに喰われる!?『ツシマフトギス』

九州と朝鮮半島との間にあり、日本で1番目に大きな島である対馬は、過去に中国大陸・朝鮮半島と地続きであったことから、国内では他に見られない、大陸とつながりの深い生き物たちがたくさん生息しています。

ツシマフトギスという名の対馬特産のキリギリスの仲間もそのひとつ。朝鮮半島や中国に同属の近縁種がいます。



ツシマフトギスのメス

このツシマフトギス、メスの産卵管を含めると体長が6cmを越え、体型もその名の通り太くずんぐりして、キリギリスの仲間の中でも最大のクラスといえる貫禄を持っています。

そして、この虫の一番の特徴は、成虫になっても雌雄とも翅がとて短く、大きな腹部がほとんどむき出しになっていることです。

さて、昆虫館ではこれまでに何度か対馬で調査を行ってきたのですが、一度もツシマフトギスには出会うことがありませんでした。特に数年前、9月上旬に行った調査ではかなり時間を割いて探したのですが、その姿を見ることは全くできなかったのです。

そこで、2004年はこれまで行っていない盛夏の7月下旬に調査を行いました。

調査初日、昼前に対馬に着いた我々は、身支度を整え、最初の調査地に向けて車を走らせていました。途中、山中の曲がりくねった道を走行していると、車道の真ん中に虫の姿が！ 虫をまたいで行き過ぎてから車を止め、大あわてで駆け寄ると、ツシマフトギスのメスでした。

年度をまたいで探していた虫とのあまりにもあっけない出会い、それも、夜行性だと考えていた種との真昼間の出会いに少し戸惑いさえおぼえました。

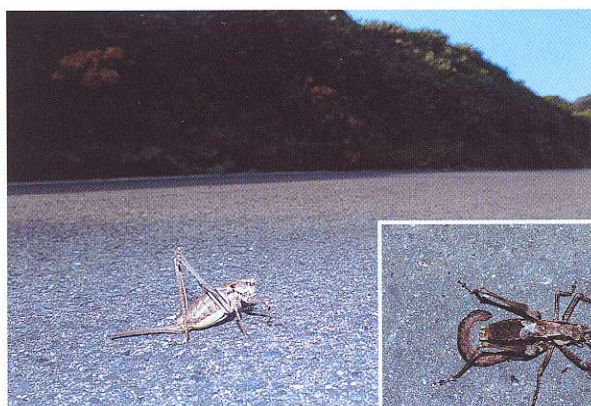
その後、調査を続けていくと、この虫は舗装され

た車道上などへよく出てくること、昼間にも見られるが、やはり夕方から夜間のほうが多いこと、クワガタムシなど樹液に集まる虫をターゲットにしたバナナトラップにも寄ってくるなどが判ってきました。

対馬での、舗装された道路へ虫が出てくる現象は前回の9月の調査で、ウマオイ（ハタケノウマオイ？）でも多くの個体を確認しましたが、今回はウマオイもいたにもかかわらず路上ではウマオイはほとんど確認できず、もっぱらツシマフトギスで見られました。（といっても、もちろん島内のどこでも見られる訳ではないのですが…）

翌々日、調査地を島の北部のツシマフトギスが比較的多産する場所に移しました。ここは、海に面した標高300m足らずの山で、山頂部は草原状になっており、天気の良い日には韓国が見えるという場所です。

ここでも、ツシマフトギスがより多く確認できたのは、山頂の草原よりも、山裾と海との間に通された車道でした。



路上に出てきたメス



ミミズを食べるオス

この車道はさほど通行量は多くないのですが、それでも時おり車が通るため、他の場所同様、車に轢かれたツシマフトギスの轢死体もぼつぼつ見られます。

では、なぜこのツシマフトギスは道路上に出てくるのでしょうか。その答えの一つは道路脇の側溝を見て気づきました。実は側溝には路上と同等もしくはそれ以上にツシマフトギスがいたのですが、その中の一部は側溝に落ちて干乾びたミミズを食べていたのです。また、路上で同種の轢死体を食べていた個体も確認できました。

どうやら、ツシマフトギスは動物質を摂食するために道路の回りに出てくるのではないかと考えられます。

場所は異なるのですが、前回の調査時に路上で多数の個体を確認したウマオイもたいへん肉食性の強い種類です。今回ウマオイが路上であまり見られなかったのは、前回と比較して1ヶ月以上早い^{くわ}ため、発生の初期でまだ性的に成熟していない個体が多かった為かもしれません。

さて、この調査地ではオスにも出会えたのですが、夜になっても鳴き声がなかなか確認できません。それらしい鳴き声は聞こえるのですが、鳴いている姿が確認できないのです。

実はツシマフトギスは、路上などによく出てくる割には草木の茂みの中では、なかなかその姿を見せません。ウマオイが葉の上などで剥き出しの状態^もで鳴くのに^も対し、ツシマフトギスは茂みの中で鳴くことが多く、しかも結構敏感でちょっとした刺激ですぐ鳴き止んでしまいます。また、体の多くが褐色のため、枯葉などの間にまぎれるとなかなか見分けることができません。(今回の調査で目撃できた40を越える個体のうち草などの茂みの中で見つけたのは4個体だけでした。)

ようやく鳴いている姿が確認できたのは4日目の夜でした。鳴き声は「シリリ、シリリ、シリリ、…」と聞こえ、昆虫館周辺で聞こえるヤブキリの鳴き声によく似ており、また、小さな翅^はにもかかわらず、その鳴き声の大きさもヤブキリにひけを取らないように感じました。



茂みの中で鳴くオス

ところで、この調査地の車道で夕方ツシマフトギスを観察していた時に、ふと、前方でトビが路上に舞い降り、何かを^{くわ}咥えて飛びたつのが見えました。

そういえば車道のガードレールにもトビが止まっていたのですが、少し離れたところに集落があり、漁村にトビはつき物だということで別に気にも止めなかったのですが…。よく考えるとガードレールはトビが止まるには少し低すぎ、不自然な気がします。

かなり距離があったので実際に何を咥えていったのかははっきりしなかったのですが、どうも、路上に出てくるツシマフトギスを狙っていたようです。そ



路上に降りたトビ



ガードレールに止まるトビ

う思って注意していると、その後も何度かトビが路上に降りたっては飛び去るところが確認できました。

ツシマフトギスは大型で、丸々と太った腹部が剥き出しの為、トビにとっては格好の餌になるのではないのでしょうか。

実際、この道路の一角に作られた展望台^{あし}の手すりでは2ヶ所でツシマフトギスの脚だけが散らばっていました。明らかにフトギスを捕らえた鳥が運んできて食べた跡のようです。



手すり上に残る脚



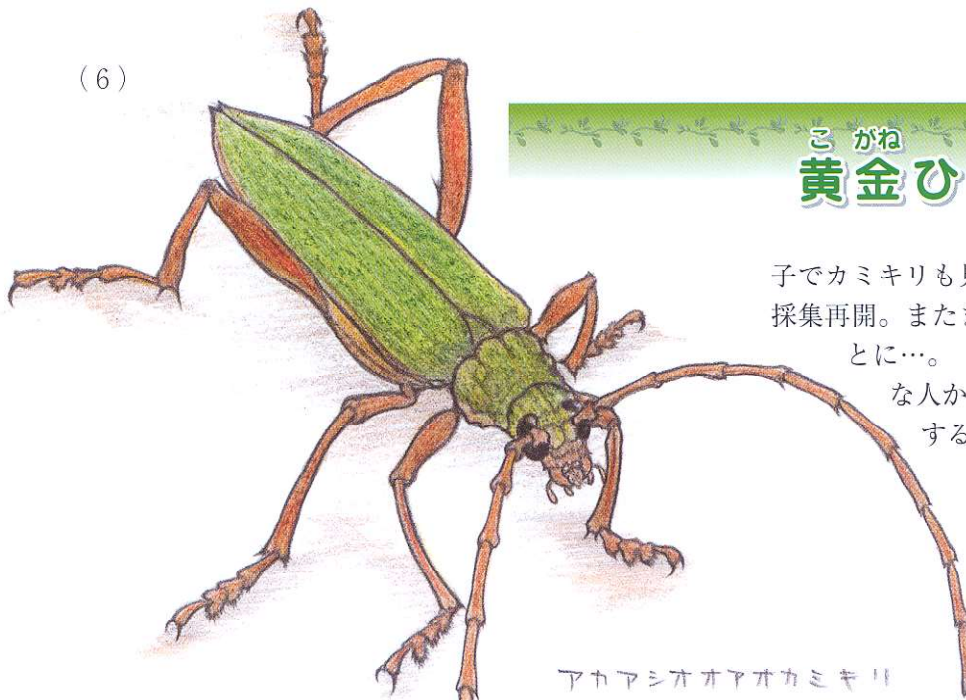
獣糞?に含まれる脚

さらに、この車道に現れるのはトビだけではありませんでした。カラスも見られましたし、夜にはネコも現れました。ネコのものかどうかわかりませんが、近くに落ちていた獣糞^{じゅうふん}にもツシマフトギスの脚が混じっていました。ひょっとするとこの時期は、絶滅に瀕しているツシマヤマネコもこのフトギスを食べているのかもしれません。

しかし、ツシマフトギスにとっては、人が作った道路のために、車に轢かれたり捕食者に襲われるという危険性が大幅に増大しているのではないのでしょうか。

(木村)

こがね 黄金ひろい?



アカアシオオアカミキリ

今年は、ギフチョウ探しと体力のゆるす限りあちこちだった。

最初は蝶をメインに探していたが、新しい種類は思ったより少ししか見つけ出せず、徐々に飽きてきたこともあり、甲虫も平行して探すようになった。その中でもアカアシオオアカミキリとヒゲコガネが一番印象に残っている。

まず、アカアシオオアカミキリだが詳しいことを図鑑で調べ、「夜行性でクヌギの大木や街灯にも来る」と書いてあったのでこれなら簡単に見つかるかも、と思い探すことにした。

仕事が終わってから何度となく遠出をし探してみたが、なかなか見つからずあきらめかけた頃、ふと立ち寄った街灯の下で何かいるのに気がついた。よく見ると「ヒゲコガネや！」思わず声が出た。細長い体に大きな触角があるのでビックリ仰天！捕まえてみるとギューギューという大きな音がしてさらにビックリ!! ジックリ観察すると腹を動かし、上バネのところでこすりあわせているのが見てとれた。

思ったよりも大きく4cmはあるだろうか。こんな所にいるとは夢にも思わずうれしさ倍増! この調

ら始まり、時間走り回った一年

子でカミキリも見つかるといいなと新たな気持ちで採集再開。またまた雑木林や街灯をウロウロすることに…。(夜、昆虫採集をしているといろんな人から変な目で見られたが、これを気にするようでは虫好きじゃない!)

なおも探すがかみきりにはなかなか出会えない。あせりも出たが、ふと小学生の頃、父によく連れて行ってもらった雑木林を思い出し早速行ってみた。するとクヌギの古い大木にたくさんいるではないか! あんなに走り回って探したのにすぐ近くにいるのが分かり、この

自然も捨てたものではないなと思わずニンマリ。

それにしても大きな大きなクヌギの木。父が子供だった頃からあったそうで、樹液がたくさん出ているところから少しずつ腐っているのか、空洞になっていて向こう側が見える程で、いつ倒れてもおかしくはないが、こんな自然が残っているのは嬉しいものだ。

この一年を振り返り、いろんな体験と楽しい昆虫採集ができた。さて、来年はどんな年になるのだろうか? (浦)



メス

オス

おばあちゃんがくれたもの



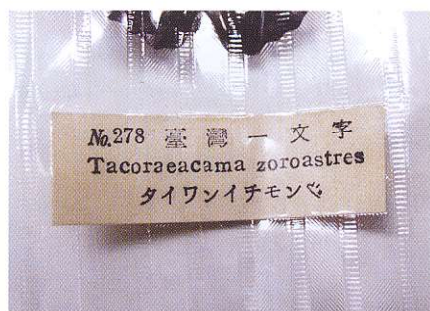
昨年のことです。今年89歳になる私の祖母が、とあるものをくれました。それは縦59cm×横85cmのビニールシートにたくさんの蝶や蛾が標本のように入封されているもので、胴体は紙、触角は黒い糸のようにせものですが、翅はまぎれもない本物です。そういえば十数年前に祖母の家で見た事があり、私が昆虫館に就職したと聞き、興味あるだろうと贈ってくれたのです。本来は何に使われた物か分かりませんが、台湾漢字表記で台湾産蝴蝶、MADE IN TAIWANとあります。蝶の名前は台湾名表記とともに、学名標記とカタカナの和名表記がなされているため、台湾製の日本人向けのお土産と思われます。どういう風になっているのか、ビニールシートをくるくる巻いても封入されている翅が壊れる

ことはありません。どのような蝶が封入されているのか分かる範囲で調べてみました(表1)。数字は封入されていた個体数です。調べる過程で、お約束というか種の同定間違いや誤字、同種に違う名前がつけられているもの、後の研究で種名が変わったものなどがけっこうあり、間違い探しのように面白いものでした。それを拾い出したものが表1の備考欄です。

日本では見られないものやわずかしき記録のないものも多く、裏返せば翅の裏面も見え、持ち運びもとても容易です。私の就職を祝ってくれた上に、こんな面白いものを長い間保管し、贈ってくれたおばあちゃんに感謝します。(辻本)

○参考文献

原色日本蝶類図鑑 改訂12刷. 保育社. 1987



こんな間違いも…



全体はこんな感じです。



優美!! アケボノアゲハ

表1: 封入されていたチョウ・ガ

科・亜科名	現在の和名	個体数	備考	科・亜科名	現在の和名	個体数	備考
マダラチョウ亜科	ミナミコモンマダラ	1	コモンアサギマダラと表記	アゲハチョウ科	シロオビアゲハ	6	うち1はオナシアゲハと表記
	マルバネリマダラ	6	うち2はマルバネムラサキマダラ、2はムラサキマダラ、1はツマムラサキマダラ、1はホリシヤムラサキマダラと表記		アオスジアゲハ	6	
	オオゴマダラ	1			アケボノアゲハ*	1	
	ツマムラサキマダラ	2			オナシモンキアゲハ*	1	
タテハチョウ亜科	ウスイロコノマチョウ	9	うち6は後翅の裏表が逆	シロチョウ科	ウスキシロチョウ	6	すべてムモンウスキシチョウと表記
	タテハモドキ	1			モンシロチョウ	8	うち1はとなりのウラナミジミとラベル位置が逆
	ジャノメタテハモドキ	1			台湾モンシロチョウ	4	
	シロミスジ	1	前後翅とも裏表が逆		ウスムラサキシロチョウ*	2	
	リュウキュウミスジ	1	前後翅とも裏表が逆		ホシボシキチョウ	1	
	タイワンイチモンジ*	1	最後のジの字が90度傾いている		キチョウ	1	台湾キチョウのようにも見える
	ルリタテハ	1			台湾キアゲハ	1	台湾キアゲハと誤記
ジャノメチョウ亜科	ホソチョウ*	8		シジミチョウ科	メスジロキチョウ	1	
	タイワンウラナミジャノメ*	1			ツマグロキチョウ	1	
	コウラナミジャノメ	1			ウラナミジミ	3	すべての個体において後翅の裏表が逆、1はとなりのモンシロチョウとラベル位置が逆
	コジャノメ	2	すべての個体において前後翅、もしくは後翅のみ裏表が逆、コジャノメはヒメジャノメの可能性あり	ガ類	ベニゴマダラホソバ	4	うち1はベニゴマダラホソバと誤記
	コヒトツメジャノメ*	1			モンシロモドキ	4	
	ルリモンジャノメ*	1			シャチホコガ科の1種	1	
アゲハチョウ科	タイワンキマダラヒカゲ*	2			カレハガ科の1種	1	
	ミカドアゲハ	6			ヤガ科の1種	1	

*: 参考図鑑出版時日本記録種ガ類については不明

雑記帳



子供は、動き回る生き物が大好きだ。身近な昆虫や小動物には目がない。お母さん方は、虫を捕まえたり、遊び回って泥んこになって帰ってきてても嫌な顔をせず、面白がってあげてください。ショウリョウバッタを捕まえる時に、力を入れすぎて殺してしまっても、ザリガニを捕らえて飼育して死んでしまい腐臭を放っていても、アブラゼミを虫かご一杯採って、翌日には固くなって動かなくなっている、決して怒らないでほしい。少々、大人から考えて残酷だと考えられることでも、暖かく見守ってあげて下さい。小学校の勉強は、漢字と計算ドリルさえしっかりやっておけば、大丈夫ぐらい大きな気持ちでいてください。子供達は、無数の生物の死を直接体験することによって、生き物は死ぬと二度と再び生き返ることがないことを、わかってくるようになる。

そのときわからなくてもかまわない。「命」の大切さを大人は口々にいう。しかし、自然の中で生き物と接する機会が少なくなってしまう、都市化・情報化が進んだ現在では「命」の大切さを実感するのは難しい。それだからこそ、自然と接する時間は貴重だ。自然の中で遊んでいると、偶然に生き物たちの予測できない出来事に出会うことができる。そういえば、カメの卵と思って育てていて、春になると卵からヘビが出てきてビックリしたこともあるし、地面にオシロイを突き立てて必死に地中に産卵しているキリギリスに出会うかもしれないのだ。コンピューターのゲームでは、気に入らないとスイッチを消したり、リセットすれば済むが、自然が相手だと自分の思うとおりにならないことも多い。それが、自然を相手にするということである。(中谷)



いんぷおめいしょん



開催中

橿原市昆虫館15周年企画・第一弾
「思い出いっぱい、昆虫館！」

期間：平成16年12月26日(日)まで
会場：橿原市昆虫館 二階展示室 一角
内容：行事の楽しい写真やサマースクール生が作成した昆虫標本・作品等を展示しています。菓子のオマケでお馴染みのフィギュアもあるよ！

12月

橿原市昆虫館15周年企画・関連行事
「橿原市昆虫館のクリスマス」

今年最後に、もう一度昆虫館へ行こう！

日程：12月25日(土)と26日(日)
会場：橿原市昆虫館 全館
主催：橿原市昆虫館・橿原市昆虫館友の会
内容：館内をまわって難問を解き明かす「クイズラリー」や化石のレプリカ作り等を楽しむ「クラフト教室」、「ふれあいルーム」・「放蝶サービス」・「フォトプレゼント」といったミニイベントがいっぱい！ 事前申込は不要ですので、当日ご来館ください。(材料費100円が必要な場合有)



※いずれも詳細は橿原市昆虫館へお問合せ下さい。

1月～

橿原市昆虫館15周年企画・第二弾
「ひつつき“虫”とよばれる植物たち」

期間：平成17年1月4日(火)～2月13日(日)
会場：橿原市昆虫館 二階展示室 一角
内容：普段は服に付いて、厄介者の「ひつつきむし」。でも、ホントは形や色もさまざま！ いろんなひつつき虫を展示します。

1月

冬の虫観察会

【雨天中止】

日時：1月23日(日) 午前10時30分～午後3時頃
場所：昆虫館会議室集合～万葉の森(徒歩約3km)
内容：越冬している昆虫を野外で観察します。
申込：往復葉書で応募(詳しくはお問合せ下さい)

予告

2月20日(日) 第45回観察教室

橿原市昆虫館だより GONTA

Vol.14 No.4

2004年(平成16年)12月1日発行 (通巻56号)

編集・発行／橿原市昆虫館

〒634-0024 奈良県橿原市南山町624番地

tel.0744-24-7246 fax.0744-24-9128

<http://www.city.kashihara.nara.jp/insect/>

印刷・製本／株式会社アイブリコム